

5-14 東海地方におけるラドン観測 (XVIII) Radon Observation in the Tokai district (XVIII)

東京大学大学院理学系研究科
Graduate School of Science, University of Tokyo

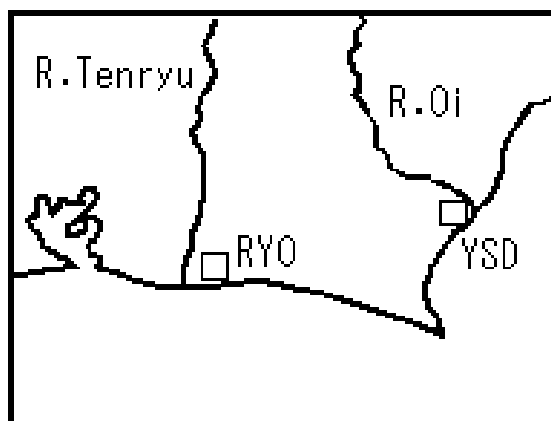
前報¹⁾ に引き続き、東海地方における地下水のラドン濃度の連続観測結果（1999年11月～2001年5月）を報告する。

観測点は第1図に示す竜洋（RYO）、吉田（YSD）の2地点である。第2図は、RYO、YSDにおける、1時間毎のラドン濃度（積算値）の24点移動平均値の時系列である。図の右上には、1997年以降のラドン濃度の観測値を示してある。OMZではシステムの更新のため観測を停止している。

RYO、YSDでは1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響であると解釈される。YSDのラドン濃度は1999年までは大きく変動していたが、2000年以降は落ち着いた変動を示すようになった。

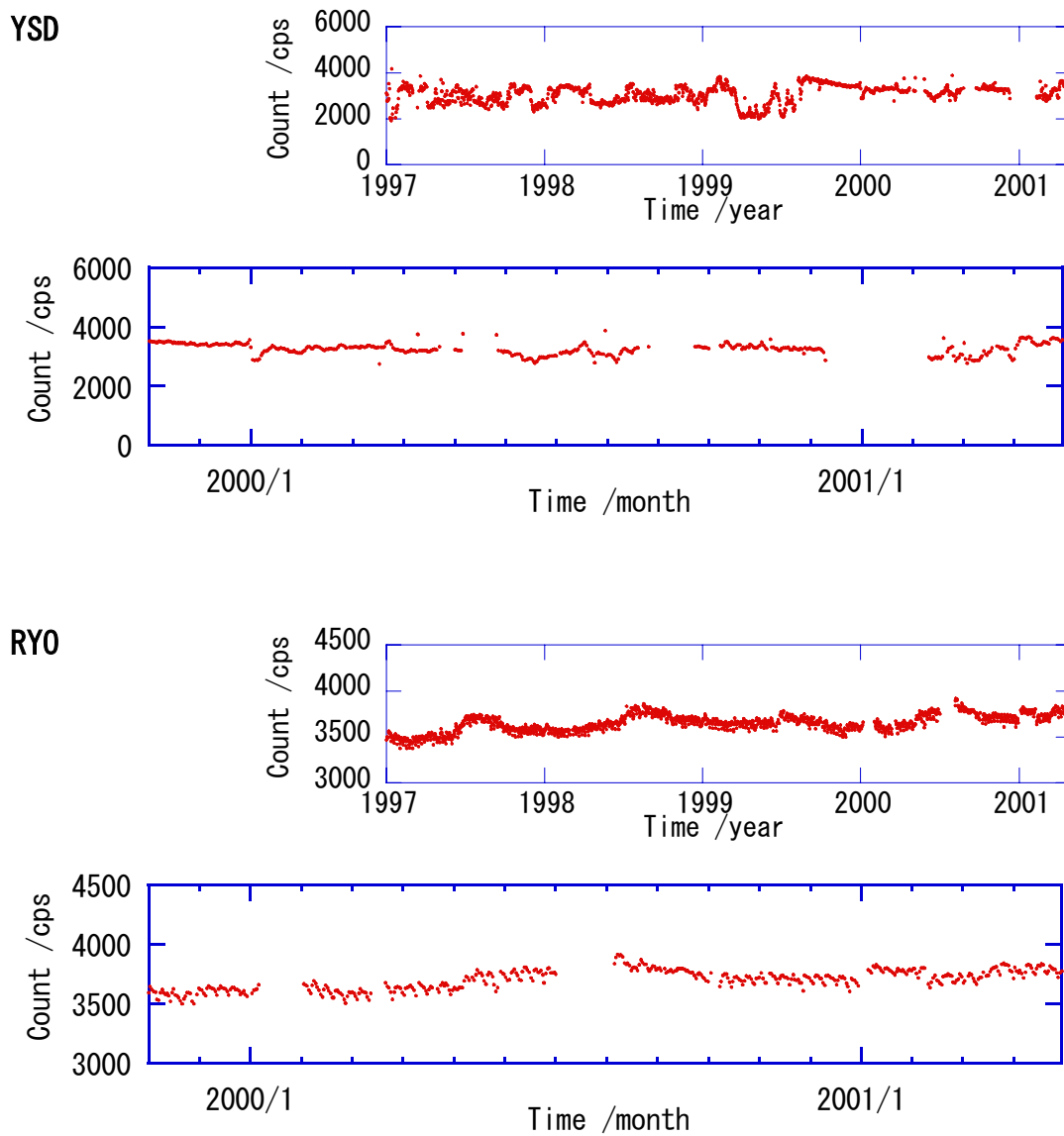
参 考 文 献

- 1) 東京大学大学院理学系研究科：東海地方におけるラドン観測 (XVIII)、連絡会報、64 (2000)、309-310.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Tokai district.



第2図 YSD、RYOにおける地下水のラドン濃度変化

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in ground water at YSD, RYO. The data are 24-hour moving average value.